

第1回寝屋川市ごみ減量化・リサイクル推進会議

日 時：令和2年8月19日（水）10:00～

場 所：寝屋川市クリーンセンター6階多目的室

議 題：変更委員の紹介、寝屋川市ごみ減量化・リサイクル推進会議スケジュール等について、令和元年度ごみ排出量について、ごみ減量・プロジェクトのまとめ、ごみ減量・プロジェクト第2弾について、令和2年度寝屋川市一般廃棄物処理実施計画、その他

出席者：花嶋会長、北田委員、平瀬委員、福原委員、橋本委員、竹川委員、田中委員、中西委員、岩根委員、吉田委員、櫻井委員、奥田委員、川口委員

次第1．変更委員の紹介

（資料1・2に基づき、事務局より説明）

次第2．寝屋川市ごみ減量化・リサイクル推進会議スケジュール等について

（資料3に基づき、に基づき、事務局より説明）

次第3．令和元年度ごみ排出量について

（資料4に基づき、事務局より説明）

委 員：最終処分量の計算式を教えてください。

事務局：最終処分量の内訳は、可燃ごみの焼却に伴う焼却灰と不燃物の無価値物（埋立処理）となっています。

会 長：最終処分量だけは目標達成しているが、他の目標達成には至らなかったということですか。

事務局：計画ではあくまでごみの総量として計画を立てていますので、量としては達成できていませんが、1人1日当たりの量では近い値になっています。

委 員：人口の推移が一番の誤差が生じた原因とのことですが、令和2年度の最終目標の人口は見えてきているとは思いますが、ここから10年後に向けての計画を立てる上で乖離している部分について、もう一度見直して行うということでしょうか。

事務局：廃棄物減量等推進審議会で、10年間の計画についてご審議いただいています。人口の推移は、上位計画である総合計画や人口ビジョン等を踏まえた計画を策定していきたいと思います。

委員：人口のブレによっては、ごみが増えることはあります。

事務局：平成30年度の災害等の突発的なものを除き、10年間でごみ総量は年々減少しており、同じ人口で推移した場合でもごみ量は微減すると考えております。

委員：コロナ禍で家にいることが多くなり、掃除等でごみ量は増えていますか。

事務局：4・5月の持込みのごみに関しては、昨年度に比べて約9 t程度減っています。全体的に家庭系・事業系を合わせて380t程度減少しています。

委員：目標値よりごみ排出量が多いのは人口が減らなかったとのことですが、1人1日あたりでは目標値に近いということは、評価できるということでしょうか。

事務局：はい、目標値に対してかなり近いところまでできていると考えております。

委員：最終処分量の実績が、かなり目標値より小さいですが、どのような要因がありますか。

事務局：最終処分量の減少の主な理由は、平成30年度から新焼却施設が本格稼働し、効果的な焼却により従前よりも焼却灰が少なくなったことだと考えられます。平成21年度では焼却処理量に対して17%が焼却灰であったのが、新焼却施設では13.7%となっていることから、この3%の差が大きく寄与していると考えられます。

委員：資源集団回収量について、目標値と速報値が乖離していますが、今年度で実現可能なのでしょうか。

事務局：資源集団回収量に限らず、令和2年度の最終目標値の数値というのは、10年前に策定した計画の最終目標年度となりますので、目標値を変えることができません。そのため、資源集団回収量の目標値は達成できないと考えています。今後新しい計画を策定していくなかで、令和3年度からはどのような数値にしていくのか計画に落とし込んでいかなければと考えております。また、資源集団回収につきましては、地域の自治会や老人会、子ども会など様々な団体の方にご協力いただいています。近年では、パソコンやスマートフォンなどが普及するなかで、紙資源が減っていることから、資源集団回収などの取組が低下しているのではなく、そもそもの紙などの排出量、家にある量が減っていると考えられます。次の計画ではこのようなことも課題だと考えています。

会 長：資源集団回収量やリサイクル率は、全国的に見ても減少傾向がみられます。缶やペットボトルに関しても薄肉化しており、たくさん集めても重量がでないということもあります。

次第4. ごみ減量・プロジェクトのまとめ

(資料5に基づき、事務局より説明)

委 員：私はごみ減量マイスターをやっており、ごみの削減・リサイクルについてあちこちで活動しております。現在家庭で生ごみを一夜干ししています。これを行うことにより、生ごみの水分量が80%から40%まで減少します。また、雑がみに関して、新聞紙で袋を作成し、トイレットペーパーの芯やティッシュの箱、メモなどの雑がみをその中に入れ、一杯になれば資源ごみとして出しています。成田東町・日新町でこれらの運動を展開しております。

新聞と、雑がみを別々に分けておくと売却価格が異なってきますので、そのような部分にも着目しないといけません。例えば、モノクロ片面や両面でも価格は異なります、シビアに見ていくとごみはただ燃やすだけでなく、お金になります。また、ごみの燃焼を促進するために紙ごみを燃やす、ということがありますが、そうなれば、他市からもお金をもらって燃やすなどの考えもあります。

また、業界の動きとしまして、大人用おむつごみが増えてきおり、現在燃やしていますが、各地では固形燃料にしたり、ユニ・チャームが再利用し、再びおむつにしたりしています。それと、他の市町村ではゼロウェイスト宣言などで、徹底的に分別しリサイクル率を80%近くまで上げています。やればできるので、寝屋川市ももっと頑張りましょう。事業所ごみも商店街を見ていると、水分が多く混在しています。分別や水を切るなどの運動を行っておりますが、一人ではできませんので自治会長を含めて水平展開しております。

会 長：ほかにご質問・ご意見等がありますか。

委 員：フードドライブを実施されているそうですが、私もですが、近所でも聞いたことがありません。高齢の方が多いため冷蔵庫に冷凍食品を買い込んでいたりして、期限切れ間近なものがあったりします。頻繁に開催してくれたらと思います。

会 長：どのくらいの頻度でやっていたか。

事務局：例年環境フェアで結果を発表することを踏まえて、5月に1カ月間イベント的に
行っています。その後、環境フェアでこれだけ集まったので、子ども食堂や社会
福祉協議会にお渡ししますと啓発しております。現在は、年に1回行っていますが、委員からのご意見や、他自治体では常設、通年で行っているところもありま
すので、現在策定している10年間の基本計画においても食品ロスの削減は重要で
すので、常設も踏まえた形で今後検討していかなければならないと考えています。

会 長：他になにかご意見・ご質問ございますか。今のようにやっているが聞いたことな
い、などのも有益な情報となりますので、現状などについてもお伺いしたいです。

委 員：生ごみ処理機の貸し出しについては、今どういう状況になっていますか。

事務局：貸し出しではなく、補助金を交付しております。従来から家庭からでる生ごみの
削減ということで生ごみ処理機やコンポストなどについて、補助金をださせてい
ただき、今年度の実績はおおよそ11台補助させていただきました。

委 員：生ごみ処理機は市販されているのですか。

事務局：市販のものを、インターネットや家電量販店等でご購入いただいた分が対象とな
り、購入金額の2分の1で上限2万円の補助を行っております。
なお、先ほどのフードドライブに関してですが、例年5月に行っておりましたが、
今年はコロナの影響で環境フェアが中止になったため、10月に国の食品ロス削減
月間と合わせて行う予定です。また広報等でお知らせいたします。

次第5．ごみ減量・プロジェクト第2段について

(資料6に基づき、事務局より説明)

委 員：市民の方、小中学生にわかりやすいように、「なぜごみを減らさないといけない
のか」という目的がわかりません。法律に基づき減らさないといけないのか、子
どもたちや市民にわかりやすいように「減らさなければ、近い将来環境がこうな
る」ので何g減らす努力をしましょう、というようにすれば目標がわかりやすい
と思います。本会議でもそうですが、減量ばかりで、「なぜなんだ」という近未
来に自分たちに降りかかる不利益をわかりやすく図解や言葉で説明をするのが望
ましいと思います。

事務局：廃棄物減量等推進審議会でも目的がぼんやりしているとご指摘があり、そもそも

ごみを減らすのがなぜ大事なのか、もちろん、焼却炉の安定稼働やそれにかかる職員・人件費、さらに大きな目線で言えば環境に関することや、町にごみがあふれかえるなど衛生上のことも踏まえ、何のためにするのかということは整理した上でその部分についても示していきたいと思います。

委員：どんな人にもわかりやすいというのがごみを減らす上で大事だと思っており、審議会で行っているような10年間を考えるような高尚なものだけでは減らないと思います。市民が分かるように、また子供でも理解し、小さいころからそういう習慣が身につくような説明をしなければ、効率や税金という言葉では市民はピンときません。

レジ袋の有料化に関しても、レジ袋は減ったが、百円ショップで手提げレジ袋が売れる等、違う方向へ行ってしまうので、前段部分でなぜごみを減らさないといけないのか、などを入れたらいいと思います。

会長：すごくいい話であるとともに、すごく難しい話でもあると思うので、事務局には頭を絞っていただきたいと思います。

委員：減量化目標値の焼却ごみ量ですが、今回は目標値の設定が焼却炉の関係と実際の排出量の差から、安定焼却可能な数字として1万tとしていました。今回の目標値はどこから出てきたのでしょうか。

また、前回の目標が3年間で17%減に対し、今回は4年間で3.5%減と削減率が低い理由はなんですか。

事務局：前のごみ減量化プロジェクトは焼却量をベースに3年の計画で、新焼却施設の稼働、ごみ質分析調査結果を踏まえて1万tの削減目標としていました。ただ、現行の一般廃棄物処理基本計画の数値目標とごみ減量プロジェクトの数値目標は整合がとれておらず、プロジェクトという趣旨から短期目標として焼却量をベースに考えていました。今回は10年間の計画である一般廃棄物処理基本計画をベースとし、目標値をリンクさせたため、前回と比べると、減少率が低いということになりました。

また、委員からありましたように、誰にでもわかりやすくという意味も込めて、具体的に1人1日当たりどれだけ減らしたらいいのか、ということにフォーカスして行っていこうと考えております。

委員：今回の目標は排出量でいうとどれくらいなのか。

事務局：ごみの総排出量でいうと、令和元年度71,771 t、令和5年度目標が66,048 tであり、4年間で-5,723 tとなっています。

委員：小中学生の保護者は、現在コロナの影響で過敏になっている部分がありますが、雑がみやキャップ等、自宅にあるものを学校に持って行くのは、感染しないかと考えてしまいます。専用の袋や、消毒をして持って行くなど小学1年生でもわかるようなコロナ対策もやっていただきたいと思います。

委員：レジ袋が有料化になりましたが、コロナ禍でテイクアウトが増えたかと思います。その場合にレジ袋は有料かと思いきや、レジ袋に入ったものを渡されることが多いように感じます。袋を見るとバイオマスのマークがついていたりしますが、従来のレジ袋とバイオマスのマークがついたものでは、自然環境にはどのような差があるのでしょうか。

会長：レジ袋有料化の制度自体が完璧ではなく、生分解性のものが25%含まれていたら有料化しなくてよい、分厚い袋ならもう一度使うから有料化しなくてよいなどの抜け道があります。全体としては生分解性のものに向かっていこう、3Rに加えてリニューアブルといって、所謂化石燃料に依存しないような方向はありますが、短期的にみると素材の違うものがたくさん混ざればリサイクルが難しくなりますし、どうなるのかなという感じがします。海洋に出て行ったときに生分解性があれば若干ましかもしれませんが、いいわけではないと思います。レジ袋有料化はレジ袋有料化だけを目指しているわけではなく、私たちにもう一度使い捨てを考え直そう、というものを目指しているのではないかと私は理解しております。

委員：レジ袋有料化は中途半端で反対でした。プラスチックで海が汚れていることや、魚の中にマイクロプラスチックが多く含まれているなどの現状を、皆さんにもっときちんと知ってもらわないといけません。製造者も販売者も消費者も三位一体となって考えていかなければならないと思います。

また、雑がみをリサイクルするのに学校に持って行くというのは、子供たちを環境人間に育てるという意味で必要だと思います。ただ、雑がみの中には禁忌品があり、資源になる雑がみと燃やす雑がみがあることを先生方が理解し、生徒に教えるということが大事だと思います。

会長：ありがとうございます。私は、これはいい、これはいけないと教えることが大切ではなく、そもそも次の人に渡すものなのだという根本を教えて、わからなければ

ば燃やすというほうがいいのではないのでしょうか。良い悪いと教えてしまうと逆に考えなくなるのではないか、むしろ子供たちは案外賢いと思っております。

会 長：プロジェクトの第二弾は家庭から出るごみのみが対象なのでしょうか。

事務局：ごみ総排出なので家庭系と事業系も含まれています。市民さんに向けたアナウンスをさせていただき、事業所に関しては多量排出事業者に目標を踏まえたうえで、ごみ減量をわかりやすい形で周知したいと考えています。

次第6．令和2年度寝屋川市一般廃棄物処理実施計画の概要

(資料7に基づき、事務局より説明)

事務局：一般廃棄物処理実施計画についてですが、今回ご意見をいただいた部分踏まえて、ごみ減量化プロジェクト第2弾について記載し、9月を目途に改定いたします。改定後の計画につきましては、次回のごみ減量化リサイクル推進会議でご報告いたします。

会 長：生ごみの一夜干しや、雑がみなどの市内で始まっているような取組については、どこかに入れることは可能でしょうか

事務局：改定版に記載することは可能です。

委 員：P.5の(2)事業系ごみの発生抑制の項目で、食品ロスの3010運動に関して、コロナ禍により商店街の中に宴会をできるお店は多くなく、持ち帰りや出前が多いため、そういうことに対応したQRコードを付けるなど考えていただきたいと思います。3010運動のコースターは使うところが少ないため、使いやすい形にしたいと思います。

会 長：前の次第についても構いませんので、何かございませんか。

委 員：ごみ減量化プロジェクトの資料5で、小型家電回収ボックスについて追加されるということは、小型家電が増えているということなのではないでしょうか。コミュニティセンターで見ていると、日が経つにつれ減っているように思います。

事務局：令和元年度の保健所の追加についてですが、令和元年度は寝屋川市が中核市になったことにより保健所が市の管轄となりました。他の小型家電回収ボックスも市内公共施設に設置していることから、保健所についても追加で小型家電回収ボッ

クスを設置したもので、回収量の増加を見越して設置したということではございません。

委員：以前、ダンボールコンポストについて、コンパクトで良いなと思っておりましたが、経過はどうなっていますか。

事務局：昨年度、ダンボールコンポストのモニター制度を行い97名の市民の方に3か月間使用していただき、報告書を提出していただきました。結果は、ホームページにも掲載しておりますが、その中で楽しくダンボールコンポストを使用したという意見の一方、脆弱性に関する意見もありました。今年度はダンボールコンポストモニター制度に代わり、ダンボールよりも強く家にあるもので生ごみの堆肥化をやっていくための講習会を行っています。コロナの影響で現在1回のみで開催となっておりますが、今後他のコミュニティセンターで順次行っていく予定です。また、広報にも掲載しますのでぜひご参加下さい。

委員：政府では、容器包装プラスチックに加えて、ボールペンやおもちゃなどの一般プラスチックを回収する方向に審議が進んでおりますが、寝屋川市としてはどういう捉え方をしていますか。

事務局：国からの詳しい情報がないため、今後回収方法などの詳しい情報が入り次第、会議の場でお知らせしていきたいと思っております。

次第7. その他

次回の会議開催予定は、令和3年1月頃。